

露後恩

題字 恩後露 揮毫 伊方町佐田岬小学校長 関岡 寿登 解説は3面



発行所
（公財）愛媛県教育会
〒790-8545
松山市祝谷町1丁目5-33
エスポワール愛媛文教会館内
電話 (089) 945-8644
FAX (089) 945-1459
E-mail info@chime-kyoukukai.jp

現代「絆」考



愛媛県教育会評議員
年森 恭子

- (2) 学校紹介 松山市立津田中学校
 - (3) ふるさとに生きる
 - (4) 旅・たび
 - (6) 日連教長野大会印象記
 - (8) ふるさとスケッチ
- ローカルトピックス

今年から公益財団法人となつた教育会に評議員としてご縁を得た。

私は結婚後、過去多くの女性がそうしてきたように主婦業に専念した。だから「女学生」を定年まで続けることに敬意を払いたい。その後自営業の仕事が増えもしたが、育児・家事・家業のつながりだけで生きる「密な関係」は、楽なようでいて時に苦しく排他的だということも実感した。そうするうちに社会とつながりPTA、ひいては教育委員、取得した野菜ソムリエ、県環境マイスター…行く先々で何気ない「普通の意見」を重

宝がられ、「新しい絆」が増えていった。そんな「普通」を活かした社会復帰を今は素直にうれしいと思っている。

用語の厳密性は別にして、前者を強い絆(ストロングタイ)という。それは血縁や親友、会社などの共通点が多く濃い人間関係。話題も合いやすい反面、恩義を感じ、異質な人を締め出す集団になりやすい。後者は緩い絆(ウイークタイ)と呼ばれ、疎遠で利害関係のない分、私情や後腐れの少ない人間関係。FacebookやLine・twitterなどのSNS(ソーシャルネットワーク)でますます主流になりつつある。

注意して使えば今一番の社会関係資本だと期待されている。現代社会は行為に価格を付けて支払う一方、お金で解決不能なことを人と人とのつながりで解決する。しかし、「緩い人間関係」は「取扱注意」。SNSに未熟な老若男女がウィークタイを見誤って起こる残念な事件が後を絶たない。ところで、この絆づくりによく効くコミュニケーションツールが、野菜。現に家庭菜園は退職後の趣味の一番手。生産情報、手土産、天候、健康、料理法：野菜には育てる側の物語(ストーリー)があり、もう側にも物語がでる。フィードバックも可能。「たくさんとれてね〜」などと押しもきく。

実はこの春、ありがたいことに私も山ほど玉ねぎをいただいて物語を楽しんだ。感謝。恋衣ゆるき絆の秋灯下
恭子

一略 歴一
(としもり・きょうこ)

西条市出身
昭和58年 岡山大学法文学部卒業

（英文学専攻）
メーカー勤務後結婚退職

平成9年 医療業（診療所）

平成11年 小中高市連PTA
西条高校学校評議員

平成19年 西条市教育委員

平成21年 西条市教育委員長

響びょう聞きょう

「スポーツの祭典」であるオリンピック・パラリンピックが二〇二〇年に東京で開催されることが決定した。二〇一七年には愛媛で国体も開催される▼スポーツは言葉が通じなくても、懸命に努力する姿や障害をもつとせずつに駆ける姿が勇気と感動を与えてくれる。スポーツは自分との闘いだ、その姿勢は大勢の人に夢や希望を与えてくれる▼オリンピックの根本原則の一番目に「オリンピックは人生の哲学であり（中略）スポーツを文化と教育と融合させることで、（中略）努力のうちに見出される喜び、よい手本となる教育的価値、社会的責任、普遍的・基本的・倫理的諸原則の尊重に基づいた生き方の創造である」とあり、文化の発信も大切な目的である▼五輪招致のプレゼンで滝川は、日本人が互いに助け合い、お客様を大切にするのは先祖代々受け継がれた『おもてなし』の文化に根付いていると紹介した。愛媛にも『お接待』の文化がある▼愛媛国体や東京五輪におもてなしの文化を発揮して、子どもたちの夢を育み、元氣な日本、愛媛になるような大会にしてほしい。

ひとこと

道後を「心のふるさと」に



愛媛県教育研究協議会 副会長 亀田 勝豊

道後小学校は年間に百二十名から百五十名ほどの転出入児がいる学校である。六年間在籍する児童は卒業生の約五割という実態を踏まえて、私は教育目標を「自己をひらき、共につくる道後っ子の育成」と設定し、その重点目標の一つに「地域に根ざす「心のふるさと」づくり」を取り上げて、地域素材や人材等を活用した学習を推進している。

道後温泉本館改築百二十周年事業を開催しようと具体的な計画を進めている。この事業は、道後温泉を舞台に日本ならではの「温泉アートエンターテイメント」を追求し、その歴史を未来につなぐ最先端のメディアアートの祭典になる予定である。

本校がこの二年間に四国造形教育研究大会や松山市教育研究大会(図画工作科)の会場になった経験を生かして、私は松山市のこの事業に地元小学校として積極的に参画しようと考えた。まず、本年度行うプレイベントや来年度行う本イベントに道後っ子も主体的に参加できるように企画を提案する。そして、国内外で活躍している新進気鋭のアーティストたちとパフォーマンス作品を共同制作するアート体験を道後っ子に味わわせたい。このことは、本校に数年しか在籍できない道後っ子にとっても一生忘れることができない思い出となり、「心のふるさと」づくりになるであろう。ぜひともやり遂げたい。

(松山市立道後小学校長)

学校紹介

No.143

松山市立津田中学校

ガッツだ！津田中

「津田中、ファイト！」



マーチングバンドの聖地、大阪城ホールに響く声。満面の笑みを浮かべて登場する生徒たち。一瞬の静寂の後、ステップを踏みながらの演奏・演技が始まる。昨年、本校吹奏楽部が念願の全国大会出場を果たした瞬間であった。足取りも軽やかに次々と隊形を変えながら演奏を行う。規定の六分間に練習してきたことすべてを凝縮させる。結果は銀賞。津田中の歴史に新たな

今年度、運動部活動は近年で最高の成績を収めた。県総体には松山市最多の八十六名が出場し、女子バレーボール部が優勝、男子ソフトテニス部が準優勝、バスケットボール部は男女ともに三位入賞。男子ソフトテニス部は四国大会でも準優勝し、全国大会出場を果たした。新チームも先輩の成績に追いつけ、追い越せの意気込みで熱のこもった練習に取り組んでいる。

また、文化部も地道に活動を行っている。吹奏楽部は前述のとおりマーチングで実績を残すとともに、他校の吹奏楽部同様に吹奏楽コンクールにも出場している。放送部は放送コンテスト県大会入賞を目標して練習に励み、美術部は個性を磨き、制作にいそ

活動は大会やコンクールだけでなく、吹奏楽部は地区の体育大会、文化祭、成人式に花を添え、放送部も地区の体育大会の進行を担当して地域との連携を図っている。また、美術部は体育大会や文化祭の看板作りも担っている。

改めて言うまでもなく、部活動は大会やコンクールでの入賞だけを目的に行われていてのではない。練習をとおして体力や技能の向上を図り、困難にくじけない精神力や協調性を養うことが肝要である。また、礼儀を身につけさせたり感謝の心を育てたりすることも大切である。

部活動生の活躍は学校のみならず地域にも活気をもたらしてくれる。勇気や根性を意味するGutsとTsudaを併せた生徒会スローガン「Gutsuda」のもと、今後いっそうの活躍を期して活動を充実させていきたい。

(教頭 門屋 泰輝)

題字に寄せて

恩後露



伊方町佐田岬小学校 校長 関岡 寿登

駒澤大学書道部の文集名であります。同部は五十年に渡り「習字教室」を毎年八月に佐田岬小で実施し、本校児童に関わってくれております。この交流は、昭和三十八年に旅行で佐田岬を訪れた書道部員が定期船に乗り遅れたところ、地元の人が定期船まで送ってくれて無事に帰路に着くことができた恩返しとして始まったといえます。地域の人たちから受けた大きな恩への露ばかり（わずかばかり）のお礼という学生たちの気持ちが届められています。
学生と地域の方の心優しい思いを子どもたちは引き継ぎ、人の気持ちの分かる児童に育っています。

ふるさとに生きる

どちらもふるさと

愛媛と熊本に生きる



篠原眞佐子先生

訪問者

田中 あけみ

(四国中央教育会OB)

篠原眞佐子先生は熊本で生まれ育った。お父様は愛媛川之江のご出身。先生は二十四歳の時、親類の勧めで川之江に単身移り住み教師となりました。その一年後に当地で結婚されたが、ご主人は先生の退職後、早くに他界された。先生は現在八十八歳である。足こそ調子の悪い日もあるけれど、一人住まいのお宅にはひっきりなしに来客があり、好奇心旺盛で、地元で開催される少年野球やパークゴルフ大会の始球式にも活躍されるし、講演活動にも忙しい。目下の楽しみは、長年続けている市民合唱団で歌うことと、たくさんの教え子たちとの交流だとほほえまれた。

「辰巳会」と名付けられた愛媛県での初任の教え子たちは今年七十四歳になり、先生とはまるで大ファミリーを結成しているようである。月に一度は互いに呑みかわし、その間にも数人は行き来されるそう。私が訪問した日にも、初老の三人が共に迎えてくださった。

○教え子の 応援

○夜桜を 見上げし 汗の始球式

○教え子の 剪定 教へ子等の笑顔かな

個性それぞれに 眞佐子

十二月に予定されている市民合唱団の公演会では、眞佐子先生が自ら作詞された「われら辰巳会」の歌の大合唱があるそう。その後、先生は熊本市に転居される。半信半疑の私に、「ここでずっと迷惑かけるわけにいかんよ。妹（実妹）の近くに行くことに決めた。みんな寂しいだろうと心配してくれるけど、また新しい出会いがあると思う。」と、言われる。すでに、その時の「別れの詩」まで用意されてあつて驚いた。

別れの詩 (略記)

眞佐子

四国の空よ 山よ川 何百何千かわいいた顔 六十四年の思い出を



ふところいっばい しまったよ 幼い頃の 新しい 思い出求め 生きて行く 別れは 会うの始めです 旅立ちの日です さようなら

愛媛と熊本のふるさとに生き抜く米寿の眞佐子先生。その「生きざま」と「旅立ち」を、心から祝福したいと思う。「友達と熊本へ会いに行きます。」と約束して、先生の住み慣れたお宅を後にした。

篠原 眞佐子 先生 (88歳)

(四国中央市川之江町在住)

ハウジング事業のご案内

学校生協がハウジングメーカーと提携することによって、学校生協組合員のライフスタイルを応援させていただきます。

新築・マンション・リフォーム等、11社のハウジングメーカーと提携しております。詳しくはホームページをご覧ください。

http://www.ehime-gakuseikyou.jp/index.jsp

お問い合わせは 愛媛県学校生活協同組合連合会 電話 (089-925-0555) または 郡市学校生活協同組合

特集 旅 たび

私の旅



小島大市長
三浦 伸文
今治市校長

私は、特に旅好きではないが、この年になると、国内は、

北は北海道、南は沖縄まで、ほとんどの観光地に行っている。子供が小さい頃は、長期休業中、必ず子供を連れて家族旅行に出かけていた。それが、夫婦共働きのストレス解消法になっていった。職員旅行も三十六年間、皆勤である。海外へも、新婚旅行でタイとシンガポール。愛教研の研修旅行では香港、マカオ、中国に行かせていただいた。

しかし、私の一番楽しみにしている旅は、何と言っても同級生との一泊二日の旅行である。旧盛口中（現上浦中）の同級生が大三島に八人住ん

でいる。その仲間との旅行である。二十年ほど前から始め、最初十年間は、毎年、土日を利用して行っていた。最近は二年に一回程度になっているが、そのために、全員が毎月五千元ずつ積み立て貯金をしている。

旅の行き先は、食べ物と飲む所（歓楽街）で決まる。観光名所などは、ほとんど行かない。同じ場所に何回も行つたこともある。酒を飲めない友人がワンボックスカーを運転してくれて、朝からアルコールが入っての自由気ままな旅である。同級生だからこそ何でも話せる。文章にできない話がたくさん聞ける。実におもしろいのである。

来年の正月には、還暦のご祈禱と同窓会が島で行われ、私が事務局の代表となった。次回の旅行には、島外の友人にも声をかけてみようと思っている。

北の大地で



小前町松前小
教諭
二宮 貴美子

学生時代、中型バイクに大きな荷物を載せて北海道へ向かった。帰りのフェリーだけ予約して約一か月間、その都度計画を立てての行き当たりばったり旅。九月の北海道は予想外の雪が降り、あまりの寒さに泣きながら運転した。道に迷い宿に向かうことを諦め、真っ暗な草原にテントを張って夜を明かしたこともあった。知らぬ地で困ったことは多々あったけれど、それ以上に得るものがあつた。

北海道にツーリングへ行くときバイク同士がすれ違う時、お互い挨拶をする。手を挙げる、ピースサインを出す、軽く会釈するなど人それぞれだが、全ての人たちが仲間になったような素敵な気分になる。また、北海道の人はライダーを温かく迎えてくれる。

格安で泊まれるライダーズハウスでは日本全国からたくさんライダーが集まる。年齢も職業も様々で、いろいろな生き方や考え方があつた。知り刺激を受けた。行く先の情報交換をし、一緒に行こうと誘われてパラグライダーをしたり秘境の温泉を巡ったりするなど、普通に旅行していったら絶対に会っていなかったであろう人々と普段できない経験をすることができた。今は旅行するにも自動車や公共交通機関を使うことがほとんどだが、二人の息子たちが大きくなったらいつか家族で北海道をツーリングしたいと思う。そして、どこまでも続く直線道路を自由に走り、北海道の大自然を堪能したい。

ずっと旅人でいたい



小浜津三市長
三好 建次

私は、けっこう旅好きである。全国四十七都道府県のうち、訪れたことがないところは、今のところ七県である。大学が横浜だったため、学生時代は友人と東日本の各県を旅した。とにかくお金がなかつたので「安上がりの旅」ではあつたが、青春時代を謳歌した。結婚して、子どもができてからは、オートキャンプをメインに家族旅行がほとんどとなった。父親として、少しは存在感を出せたかなと思っているのは自分だけかもしれないが……

旅の楽しみ方には、いろいろあるだろうが、私は旅に行く前の計画段階が特に好きである。時刻表やロードマップを片手に、旅のルートを練ったり、旅行雑誌で観光スポットを探したりしているだけで、既に旅行気分を味わうことができた。綿密な下調べのおかげで、現地に行つても時間を有効に使うことができたので、実益を兼ねた趣味なのかもしれない。たくさん旅先の中で、特に心に残っている場所が二つある。一つは、鹿児島県南九

州市の「知覧特攻平和会館」である。涙が止まらず、心が震えっぱなしだったことを今でも鮮明に覚えている。もう一つは、千葉県野島崎のホテルで見た日の出。人生で一番心地の良い目覚めであった。子どもたちも成長し、生活環境がずいぶん変わってきたが、これからも自分なりの旅を楽しみたい。さし当たっては、バイクのツーリングと温泉巡りをエンジョイしたい。

自然と生活



小和霊市宇和島市
頭真大嶋教人

私は、小学生の頃、社会科で習ったいろいろな地方のくらしに興味を持ち、テレビや本で見た町の様子を自分の目

で見ても確かめたいと思っていました。子どもの頃の私の住んでいるところは、御飯も風呂も薪で焚き、井戸水で顔を洗う自然と密着した生活でした。北海道の冬の寒さ。東北地方の独特の家の建て方。沖縄で迎える台風の凄さ。子ども心に、冒険心と探求心を高めていったように思います。家族との旅行や修学旅行を通して、少しずつ確かめていくことができました。大学時代は、一人旅や友達との旅行に恵まれ、北陸・飛騨美濃・信州・中国地方まで行き、それぞれの地方の自然や暮らしの様子を見ることができました。この頃までは、近代化されていても自然が豊富で、自然を取り入れた生活が残っているところも多く、素朴な日本を感じることができました。子どもを連れれた家族旅行

祝 受章おめでとつじぎをします

◇瑞宝双光章(高齢者叙勲)

- 檜田 穰様 88歳 元八幡浜市立愛宕中学校校長 八幡浜市
- 戒田 光一様 88歳 元伊予市立北山崎小学校校長 松前町
- 藤岡 一夫様 88歳 元川内町立川上小学校校長 東温市

で、いろいろな町に行きましたが、便利で安全な生活ができるように改善された町が多く、観光としては便利になりました。しかし、その地方独特の昔のくらし方や、自然を生かした生活の様子を見つかる機会が少なくなりました。

日本のいろいろな場所が、世界自然遺産や世界文化遺産に認定されています。町おこしや観光の目玉として注目されていきますが、日本独特の豊かな自然として、保護してほしいと思います。また、自然と結びついた生活を、大切に続けてほしいと願います。

台湾、最高…



西小宮市新居浜市
論泰典教人 岸

五年ほど前、一念発起して家族そろってパスポートを取

得した。結局、海外旅行計画は行き詰まり、長い月日が過ぎていった。

私のパスポートが日の目を見る時がやってきた。愛教研の台湾教育事情視察研修に参加させていただくことになったのだ。

高松空港から桃園国際空港までは、およそ二時間三十分(時差一時間)のフライトであった。

台北市は、気温は日本と同じぐらいであった(とても暑かった)が、湿度が高く、息苦しい感じがした。人々はともエネルギーギッシュであり、信号が青に変わる度にスクーターの大集団が街中を疾走する。横断歩道を通る時でも、恐怖を感じるほどであった。

台北市立南港国民小学校を訪問させていただいた。台湾は日本の統治時代があったため、教育制度は日本とほぼ同じである。ただ、九月に新学

年がスタートするというところで、今は二か月間の夏休み中であった。この学校は児童数が千二百名という大規模校であり、科学教育では国内の最先端を進んでいる学校である。そう、いたるところにICT機器が整備されていた。その他にも、我々の参考になる点が多かった。

四泊五日という短い間ではあったが、台湾の気候風土や文化、日本とのつながりの強さを十分に感じる事ができた。是非もう一度、訪れたい。

文教俳句

- 一俳句ポストより
- 草むらからこおろぎいでて秋一つ 松山市 金丸 邦広
- 風渡る休耕田に秋桜 西条市 高橋 和
- 鈴虫の鳴く踏地裏を通路行く 西条市 高橋 和

足跡をつづる、私を記す、形に残す。
あなたが主人公のドラマを未来に伝えませんか。

「本」づくり 応援キャンペーン

- 規格・装丁のご提案
- 編集方針のご提案
- レイアウト見本のご提示
- 原稿作りのアドバイス
- 予算のお見積もり
- その他、ご相談承ります。

※書店での販売をお考えの方も是非お声がけください。
ご注文・お問い合わせは 印刷営業部 TEL (089)945-0112 FAX (089)947-6073

SEKI セキ株式会社

松山本社/松山市東町7丁目7-1 TEL(089)945-0111
東京本社/東京都中央区本町3丁目 TEL(03)3377-1230
支店/大阪・真珠 静岡所/名古屋・高知 http://www.seki.co.jp

第65回日本連合教育会 研究大会長野大会印象記

◆第一分科会 (教育課程)



松山市味生第二小
校長 砂田 孝夫

街の郊外を千曲川がゆつたりと流れ、遠くには雄大な山並みを臨む風光明媚な門前町・長野市において、第六十五回日本連合教育会研究大会が開催された。

愛媛県教育会から参加の田鍋理事長ほか四十七名を含む約一、二〇〇名が全国各地から集い、大会主題「人と人との絆の中で、心豊かに自らの生活を切りひらく日本人の育成」に関わり合いながら、学びを深める子どもの育成」のもと、熱く議論し、教育の在り方について語り合った。

大会二日目のシンポジウムにおいては、松本市教育委員長、埼玉大教育学部教授、長野県の小・中学校教諭の各氏から、「教師は子どもにしっかりと寄り添うとともに、子どもを変えようとするのではなく、自分自身が変わっていくことで子どもも変わる」「葛藤や格闘に込める学びを共に探っていくことが大切である」等、教師が子どもにどうかかわり合っていくのか、子どもを主人公とする教育はどうあるべきか、といった貴重な提案や協議がなされた。

午後参加の分科会「教育課程」では、小中一貫教育と伝統文化学習について、長野、茨城、滋賀の各先生から実践発表があった。「子どもや地域の声を教育課程づくりに反映させること」「タイムテーブルに新しい発想を取り入れてみること」等の提案は本校区の小中連携にも大いに参考となるものと受け止めた。

◆第五分科会 (健康・安全教育)



東温市信重中
校長 池川 仁志

こと」や「人と人との関係を真面目にとらえ、向き合うこと」等、漱石のエピソードも交えながら語られた。三日間、大会の運営にあたられた長野県の多くの先生方に心から感謝するとともに、伝統ある信濃教育の営みに触れたような気がして、嬉しく思えた。

第五分科会では、「自ら健康な生活を目指し実践する健康教育、及び地域との連携の中で災害等に備える安全教育」を協議題として、二つの提案発表とそれを基にした協議が行われた。

とし、次のような取組を進めているというものであった。

- 自閉的傾向が強い児童生徒が落ち着いた態度で健康診断が受けられるよう、健康診断前の事前学習を充実させる。
- 歯垢染め出しの口腔内写真を撮影し、保護者とともにブラッシング指導を行う。
- 歯科医師会作成のマニユアルを基に、週一回フッ化物洗口を実施する。

これらの取組から、生活習慣を定着させるには保護者との連携・協力が必要なこと、またフッ化物などの薬品を使用する際には専門機関との連携が大切なことを再確認することができた。

信濃教育会からは、東御市立東部中学校の発表があった。その発表は、災害発生時における「生徒自らの的確かつ迅速に対応できる判断力の育成」を目標とし、次のような取組を進めているというものであった。

- 各教科の内容を吟味し、教科横断型の防災教育を推進する。
- 緊急地震速報受診システム

を活用し、月一回、事前予告なしの避難訓練を実施する。なお、この訓練は、全校避難ではなく、状況に応じた一人一人の適切な行動を訓練するものである。

これらの取組から、形式的な避難訓練を踏襲するのではなく、真に生徒の命を守りきることができ実践的な避難訓練の必要性について学ぶことができた。また、生徒の行動の様子や意識を適切に把握し、常に改善していく姿勢が必要であることを強く感じた。

本分科会は、健康教育はもとより、東日本大震災から我々は何を学んだか、またその学びをどのように日々の教育活動につなげているか、このことを自分自身に問う機会となった。



第3分科会「道徳教育」で発表の東予西中
秋川雅与教諭(8・9月号に提案要旨)

◆第九分科会
(特別支援教育)



吉中 日論
今治市教育
真木 等美

第九分科会は、「一人ひとりの教育的ニーズに応じ、共に育む特別支援教育」を協議

題とし、「特別支援教育推進のための校内支援のあり方」

「特別支援教育における学校・家庭・関係機関等との連携のあり方」という二つの視点で提案発表があった。

まず、栃木県連合教育会からは、宇都宮市立旭中学校の「中学校における特別支援教育の現状と課題」で、「連続性のある多様な学びの場をめざした取組」の発表であった。

この中で特に興味深かったのは、校内支援体制の一環である「特別支援教室」の存在であった。この教室では、通常の学級に在籍し個別の支援を必要とする生徒を対象に、

専任指導員が生徒の特性に応じた学習指導を行うことがで

きる。つまり、通級指導教室よりはハードルが低く、通常の学級よりは弾力的に支援が受けられるという点で、困り感のある生徒の教育的ニーズに応じた学びの場として、有効に機能しているとのことだった。現在は、東京都と栃木県のみに設置されている。

次に、信濃教育会から、松本市立田川小学校の「児童の実態や願いに寄り添った支援を目指した取組」の発表であった。通常の学級に在籍する発達障害の児童が特別支援学級に入級するにあたり、特別支援学級担任との良好な人間関係づくりから始め、校内支援体制を整えていったという事例である。

発達障害の児童生徒にとって、良好な人間関係を構築し、コミュニケーションがとれるようになることは、大きな課題であり目標でもある。

これに特別支援学級や通常の学級の担任だけが関わる支援では限界がある。そこで個別の指導計画等を作成し、教職員の共通理解のもと、校内支援体制を整え分担すること

で、効果的な支援ができるというものであった。両者の発表で共通することは、授業のユニバーサル化の推進と、教職員の特別支援教育に対する理解と専門性の向上は不可欠の課題であることだ。また、幼少期から就労までの縦の連携や保護者と学校、関係機関等の横の連携による支援体制確立の重要性を再確認させられた。

平成二十四年に中教審から「共生社会形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進(報告)」が出されたことを踏まえ、更に研修・研鑽を積むことの重要性を感じた大会であった。

「共生社会形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進(報告)」が出されたことを踏まえ、更に研修・研鑽を積むことの重要性を感じた大会であった。

◆第十分科会
(学校・家庭・地域社会の連携)



会 教育長
内子会
佐伯 惇之

第十分科会の研究協議題は、「連携・協働して子供に

『生きる力』を育む学校・家庭・地域社会」で、徳島の商業高校、山口の小学校、長野の中学校の順で提案発表があった。

商業高校の発表では、地元で生産される薬味を販売するネットショップの開設とその運営や地域の人々との連携による映画制作、さらに薬味の原料の栽培、加工、販売と六次産業化する取り組みが発表された。

小学校の発表は、文部科学省委託「学校支援地域本部事業」の取り組みであった。地域全体で学校を支える組織の中核となる地域コーディネーターの活動を中心に発表された。

中学校の発表は、精密機械工業を中心に発展している諏訪市の技術科における物づくりの活動を中心にした発表であった。小学校から市の統一したカリキュラムで指導されていることや外部講師の活用や工場の生産ラインを一部止めての物づくりへの支援などが発表された。質疑応答の後、小グループ

での協議、全体協議、指導助言で会は終了した。

この分科会で、一番印象に残ったのは、地域コーディネーターの存在であった。職員室に机を置き、

○学校支援活動の依頼・調整
○ボランティア来校時の対応
○地域情報の発信
○ボランティアの発掘

などの活動をしていた。そして現在三百名以上のボランティアがいて、授業での技術指導、クラブ活動での伝統芸能の指導など幅広く教育活動を支援していた。

児童は、多様な質の高い経験をを通して地域の方々への親しみと専門性への憧れを持ち、ボランティアの方も生きがいを感じておられた。

助言者によると、この学校支援地域本部事業は、全国で九千校近くが実践したけれども成果を上げているところは少ないそうである。その正否はコーディネーター次第だそう

だ。「教育は人なり」という感を強くもった分科会であった。

ふるさとスケッチ

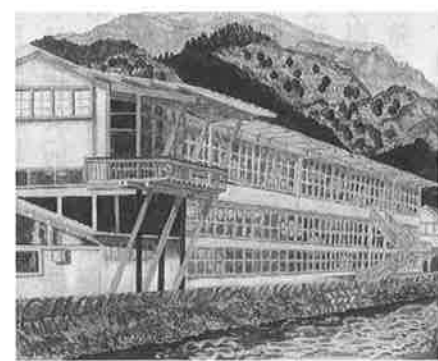
No.361

日土小学校



中代八代市八幡
論教 二宮 眞仁

校舎は建築家松村正恒氏の設計で昨年度、国重要文化財に指定されました。他にも、建築関係の賞をいろいろ授与されてきたので御存知の方も多しことかと思えます。二階のテラスは図書室から川に向けて迫り出しており、最高の



読書空間となつています。私のお気に入りは、画面奥のこれた川に迫り出している階段です。中もおもしろくて、あそこへはどうすれば行けるのだろうというような部屋もあり、迷路のようです。見学会も行われているのでぜひ足をお運びください。

西河 忠孝様	81歳	南宇和郡愛南町城辺乙三四一三	25
岡本 静子様	89歳	今治市国分四七四三	9
兵頭 史彦様	77歳	松山市桑原二七二	9
中屋 昌子様	89歳	松山市河野別府三	10
近藤 理様	82歳	西条市福武甲六四〇四	12
正岡 敏治様	84歳	上浮穴郡久万高原町上野尻九〇六五	16
神野 喜男様	94歳	松山市三津三九二	18
正岡 圭子様	81歳	今治市片山四一七六	18
三好 重夫様	69歳	西予市三瓶町朝立七六	21
竹内 洋子様	70歳	伊予郡砥部町宮内三三	25
水田 重子様	69歳	新居浜市上泉町五〇〇	25
田坂 質様	82歳	今治市大西町新甲五九	26
中村 慎二様	58歳	新居浜市政枝町一八一九	29
徳永 満男様	80歳	大洲市長浜町下須戒七五	30

ローカルトピックス

五百亀記念館



五百亀記念館が八月一日に開館しました。西条市出身の

日本を代表する彫刻家、伊藤五百亀氏の功績を顕彰し、作品などを常設展示しています。現在大小合わせて二三〇点ほどの作品を収蔵しています。この記念館は、五百亀氏の作品や人となりを身近に感じられるとともに、市民ギャラリーを設けるなどして市民の芸術文化の創造と発展を図る地域交流施設となることを

めざして建設されました。建物は旧西条藩陣屋跡地内に位置し、周辺の景観と調和した木造二階建てです。「いぶし瓦葺き」「ナマコ壁」「無垢羽目杉板タテ張り」などを取り入れ、伝統的な外観を呈しています。木製遊歩道が整備され、隣接する「西条郷土博物館」「愛媛民芸館」との景観とも調和し、両施設とも行き来できます。西条市の新たな新名所として大いに期待されています。



文教月報編集協力委員 川高 玲子

ぶんきょうの
忘年会・新年会
メニューもますます充実
ご予約は、皆様の会館

エスポワール文教会館 ☎(089)945-8644
fax(089) 932-0380

学校生協 **いよてつ高島屋ローズカード**
ご入会のおすすめ

- ☆ 商品（特別奉仕品・生鮮食品等の割引対象外商品を除く）を5%引きでご購入いただけます。
- ☆ 売り場奉仕品、優待会、カタログ、通販販売の商品は2%引きのお支払い。（一般カードは割引なし）
- ☆ お中元・お歳暮の期間中、「外商常得意様承りコーナー」にて推奨品に限り、推奨価格（10%引き）で購入できます。

お問い合わせは 愛媛県学校生活協同組合連合会
電話 (089-925-0555)
または都市学校生活協同組合